

平成21年度 第1回 IODP 部会・執行部会 議事録(案)

日時：2009年4月21日(火) 14:30~17:30

場所：海洋研究開発機構東京事務所 セミナー室A・B

出席者(敬称略)

執行部：山崎俊嗣(産業技術総合研究所) 安間 了(筑波大学) 芦 寿一郎(東京大学)
池原 実(高知大学海洋コア総合研究センター) 沖野郷子(東京大学)
坂本竜彦(海洋研究開発機構) 末次大輔(海洋研究開発機構) 高澤栄一(新潟大学)
林 広樹(島根大学) 平野直人(東北大学) 森田澄人(産業技術総合研究所)
山本啓之(海洋研究開発機構) 山本正伸(北海道大学)

文部科学省海洋地球課：酒井祐介

海洋研究開発機構 CDEX：阿波根直一 北見恵美理

事務局：松永 稔 梅津慶太

欠席者(敬称略)

執行部：松本 剛(琉球大学)

議事次第

1. J-DESC・IODP の仕組みと仕事のアウトライン [山崎部会長/安間部会長補佐/事務局][資料 1-1, 1-2, 1-3]
2. JAMSTEC の IODP 国内推進支援について [海洋研究開発機構 CDEX] [資料 2-1, 2-2, 2-3]
3. 事務局(AESTO)とIODP 事務手続きの説明 [事務局] [資料 3]
4. 第3期 IODP 執行部会からの引継ぎ事項ならびに今後の方針 [山崎部会長/事務局]
5. 役割分掌
 - ・各専門部会_担当者 [資料 4]
 - ・会員提案型活動経費選考委員会_委員選出 [資料 5]
6. SAS パネル関連
 - ・SPC 後任委員選出について
7. 専門部会・関連委員会報告
 - ・IODP 国内科学計画委員会 [芦委員/山本委員] [資料 6-1]
 - ・科学計測専門部会 [池原委員] [資料 6-2(1)]
 - 非破壊計測 WG 活動報告書 [資料 6-2(2)]
 - 孔内計測 WG 委員名簿 [資料 6-2(3)]
 - 古生物 WG 継続承認可否伺い [資料 6-2(4)]
 - ・技術開発推進専門部会 [森田委員] [資料 6-3]
8. INVEST 関連 [資料 7]
9. 乗船関連 [資料 8-1, 8-2]
10. 学術交流関連
 - ・J-DESC シンポジウム(IODP と大学における教育研究)開催報告 [山崎部会長] [資料 9]
 - ・IODP-ICDP タウンホールミーティング開催について
11. IODP 活動に対する要望などの洗い出しと整理 [山崎部会長]
12. その他 [別添資料 1~5]
 - ・その他 [参考資料 1~2]
 - ・次回執行部会開催日程

議事録(案)

1. J-DESC・IODP の仕組みと仕事のアウトライン

はじめに山崎部会長より資料 1-1、1-2、1-3 に基づき、J-DESC/IODP の仕組みと執行部の役割について説明がなされた。

- ・ J-DESC は IODP 部会と陸上掘削部会からなる。
- ・ IODP 部会は、Science Advisory Structure (SAS) に対応し、専門部会が設置されている。
- ・ SAS パネルの人事案などを執行部で作成し、幹事会で承認するという構造になっている。
- ・ 執行部は長期戦略などの検討を行ってきた。
- ・ 各専門部会には執行部からのリエゾンを送っている。
- ・ IODP の乗船研究に参加するための旅費支援が系統的に行われるようになったことが前期 2 年の大きな成果。
- ・ 成果公表助成を昨年度末に始めた。
- ・ 今期以降の重要事項として、INVEST をはじめとする 2013 年以降の科学計画更新がある。INVEST 会議までは INVEST 国内運営委員会が舵取りを行う。

2. JAMSTEC の IODP 国内推進支援について [海洋研究開発機構 CDEX]

CDEX 阿波根氏より、資料 2-1、2-2、2-3 に基づき、標記の件について説明がなされた。

- ・ JAMSTEC は IODP の総合推進機関として位置づけられている。
- ・ JAMSTEC の新しい中期計画の中に、IODP の参加者への支援を行うことが明確に記載されている。
- ・ 国内の科学計画にかかわる部分については、コミュニティーの意見を反映するのが望ましいとのことから、委託業務とし、今年度も AESTO が担っている。
- ・ コミュニティーの意見を集めるために専門部会(実質的には J-DESC の専門部会のこと)が設置されている。
- ・ J-DESC には母体となる法人組織がないため、AESTO が J-DESC と協力覚書を交わし、事務局の業務を行っている。
- ・ 昨年度の委託業務は、JAMSTEC 側担当部署が国際課であったが、今年度は CDEX (IODP 推進・科学支援室) となった。

3. 事務局 (AESTO) と IODP 事務手続きの説明 [事務局]

資料 3 に基づき、事務局より説明がなされた。

- ・ 執行部会議開催の経費(主に旅費)は J-DESC の予算から支出されており、専門部会・WG 会議開催の経費は AESTO 経由の予算から支出されている。
- ・ 執行部会議の旅費は、交通費が支給され、宿泊が発生した場合は宿泊費の実費が支給される。
- ・ 専門部会・WG 会議の旅費は、交通費、宿泊費、日当の規定額が支給される。
- ・ 飛行機利用の場合は、領収証と往復の半券、宿泊した場合は、ホテルの領収証の提出が必要。
- ・ 事務手続きが多いため、時間がかかってしまう。そのため、何か新しいことを決定する場合などは早めに動きだすこと。

4. 第3期 IODP 執行部会からの引継ぎ事項ならびに今後の方針 [山崎部会長/事務局]

山崎部会長より標記の件について説明がなされた。

- ・ 第3期執行部からの引き継ぎ事項として次のことが挙げられている。
 - ・ 乗船研究者への研究費
 - ・ コミュニティーの意見をリサーチすること
 - ・ 乗船研究者の確保、乗船研究成果の収集
- ・ 第4期執行部の活動方針としては、前期同様、情報の公開を積極的に行うこと、地球科学のコミュニティーの利益を最優先に物事を検討・決定すること。

5. 役割分掌

・各専門部会_担当者

山崎部会長より説明がなされ、下記の通り担当者が決定した。

科学計測専門部会: 池原委員

技術開発推進専門部会: 森田委員

環境保護安全専門部会: 森田委員

掘削研究専門部会: 山本(啓)委員(専門部会長兼任)・高澤委員(副担当)

掘削航海専門部会: 坂本委員(専門部会委員兼任)・山本(伸)委員(副担当)

事前調査検討専門部会: 芦委員

孔内計測 WG: 末次委員

古生物 WG: 林委員

アウトリーチ: 平野委員・山本(啓)委員(掘削研究専門部会のタスクとして兼任)

JPGU 地球掘削科学セッション: 沖野委員

研究成果関連: 今後議論を行う。

- ・ 会員提案型活動経費選考委員会_委員選出

山崎部会長より会員提案型活動経費についての説明がなされた。

- ・ J-DESC 会員から提案されたコミュニティー全体の利益となるような活動に対して審査を行い、支援する経費である。
- ・ これまでは年 2 回募集を行ってきた。
- ・ 旅費の支出に関して、採択額の 3 割までしか執行できないという制限がある。
- ・ 今後ルールを見直し、より使いやすいように改定する必要がある。その際に、プロポーザル作成支援費との棲みわけも必要。

資料 5 に基づき、執行部から選考委員長・委員の選出がなされた。

選考委員長:安間部会長補佐

委員:執行部から山本(伸)、理事機関担当者から適任者が推薦された。

委員(外部):陸上掘削部会から選出される委員に応じて決定する。

6. SAS パネル関連

・SPC 後任委員選出について

山崎委員より SPC 委員についての状況について説明がなされた。

- ・ SPC 議長候補については、笠原順三氏に就任の内諾を得ている。
- ・ 前回のマイアミの SPC では、7 名の委員中 5 名が Alternate であった(異例のことであるが、委員のやむを得ない事情による)。
- ・ 3 月の会議では、審議されるプロポーザルのプロポーネントになっている場合は、COI によりすべての議論に加われなくなる。
- ・ 現委員のうち、2 名が事情により委員を辞任せざるを得ない。
- ・ ローテーションにより退任する委員の後任(2 名)も含めて 4 名の委員を選任する必要がある。
- ・ 適任と思われる数名の氏名が挙げられた。
- ・ Active Proposal のプロポーネントになっている人をリストアップすることが事務局に要請された。
- ・ SSEP についても石渡共同議長がもうすぐ退任するため、共同議長候補の選出が必要になる。
- ・ 各候補者への連絡をそれぞれ行い、委員就任の打診を行うことが合意された(個人名省略)。

7. 専門部会・関連委員会報告

・IODP 国内科学計画委員会 [芦委員/山本委員]

資料 6-2(1)に基づき、山本(啓)委員より報告がなされた。

- ・ IODP プロポーザル作成支援について、より使いやすいように募集要領を改訂した。
 - ・ ワークショップ開催や英文校閲など、少額の支援も可能になった。
 - ・ 少額の支援については随時申し込みを受け付ける。
- ・ この支援は昨日(4/20)から募集を開始した。

・科学計測専門部会 [池原委員]

池原委員より資料 6-2(1)に基づき、科学計測専門部会の報告がなされた。その後、同じく池原委員より、資料 6-2(4)に基づき古生物 WG の活動報告がなされ、古生物 WG からの継続要望書に基づき検討がなされた。

- ・ 孔内計測 WG が計画するプレクルーズトレーニングおよびコアスクールロギング基礎コースおよび、WG メンバーの交代を承認した(合意項目 0904-01)。
- ・ 乗船研究者と航海計画の公表の迅速化を執行部に要請する(実行項目 0904-02)。
- ・ 研究者と技術者の意見交換の場となるワークショップなどの開催を目指すことが合意された(合意項目 0904-03)。
- ・ 古生物 WG 継続の申請に対する執行部コメントに対して、修正を行い、再提言を行った(提言項目 0904-04)
- ・ 科学計測専門部会からの提言(提言項目 0904-04)を受け、古生物 WG の活動継続を承認することが合意された。

・技術開発推進専門部会 [森田委員]

森田委員より資料 6-3 に基づき報告がなされた。合意項目と実行項目は下記の通り。

- ・ 新部会委員の 3 名を承認した。
- ・ EDP 委員に向けた EDP instruction booklet の日本独自のを事務局中心で整備する。
- ・ 各研究航海における乗船研究者募集のプロセスが迅速に行えるよう、今後の IODP 航海にて必要に応じて IO へ要請する。
- ・ 次期 EDP 議長候補として現 EDP 委員の 1 名を推薦する。
- ・ INVEST への White paper について、国内版は独自にまとめ、EDP のペーパーとのすり合わせは最後に不足を確認しあう程度に行う。EDP 版をコーディネートしている Bill Ussler 氏に確認をし、4 月中に EDP 版の目次を決めることを要請する。

- ・4/15のEDプロポーザル提出期限までに、渡辺委員のCFRPプロポーザルの英文校閲を5名の委員で行う。
- ・科学計測専門部会でも議論されたような、乗船研究者と航海計画の公表の迅速化について議論があった (Action Item 0904-03)。
- ・科学計測専門部会からの要請(実行項目 0904-02)、および、技術開発推進専門部会からの提言 (Action Item 0904-03)を受け、執行部では航海計画 (Scientific Prospectus) の早期公開をIOに要請すると共に、乗船研究者の推薦については、専門性が限定された公募があった場合に、掘削航海専門部会以外の専門部会・WGにも適任者の推薦を要請することが合意された。

8. INVEST 関連

事務局より資料7に基づき説明がなされた

- ・ INVEST 会議の参加登録受付が開始され、オンラインで申し込み可能。
- ・ INVEST 会議への参加旅費支援を行う。支援の詳細は5/1に開催されるINVEST国内運営委員会会議で決定する予定。
- ・ J-DESC 予算から若手枠として6名程度に旅費支援を行うことが決定している。
- ・ 5月上旬までに各WSでWhitepaperをまとめ、5月中旬～下旬に行われるINVEST Steering Committee 会議とSSEP 会議で提示することになっており、現在各WSの世話人が編集中。
- ・ 上記のJ-DESCの若手枠分についてもINVEST国内運営委員会で審査・とりまとめを行うことが合意された。

9. 乗船関連

事務局より、資料8-1、8-2に基づき、説明がなされた。

- ・ Shatsky Rise で1名の乗船キャンセルが発生したため、後任として Structural Geologist または Physical Properties Specialist が必要。
- ・ New Jersey においては Paleomagnetist を引き続き募集中であるが、ESOより最終回答の期限が4/24とされている。Specialtyの変更を交渉したが変更はできないとのこと。
- ・ Exp. 324のアウトリーチプログラムとして横浜寄港に合わせてJR号の船内見学イベントを計画中である。
- ・ 同じくExp. 324にアウトリーチ枠として乗船する国立科学博物館のアウトリーチ担当者をJ-DESCより推薦する。
- ・ Exp. 324のプレクルーズトレーニングの申請があった。そこにはアウトリーチ枠で乗船するスタッフもリストアップされている。実施場所としてどこがふさわしいかどうかの相談が来ている。
- ・ Exp. 324へのStructure Geologist または Physical Properties Specialist の追加公募(ウェブページ、メールニュース)を行うと共に、各専門部会執行部担当者から各専門部会に適任者の推薦を求めることが合意された。
- ・ Exp. 313は韓国に適任者がいるかどうかを問い合わせることが合意された。
- ・ Exp. 324のポートコールイベントをJ-DESCとして国立科学博物館と共催すること、および、アウトリーチスタッフを推薦することが承認された。これに関連し、今後、アウトリーチのプランを執行部で検討する。
- ・ アウトリーチ枠の乗船者にはプレクルーズトレーニングの支援は行わないことが合意された(参加はOK)。
- ・ プレクルーズトレーニングの実施場所についてはより詳細な実施内容を提出してもらいアドバイスすることが合意された。

10. 学術交流関連

- ・J-DESCシンポジウム(IODPと大学における教育研究)開催報告〔山崎部会長〕

資料9に基づき、標記の件について山崎委員より報告がなされた。

- ・ 乗船研究のための研究費がなく苦しいという現状が各大学にある。
- ・ 学生や社会に対して関心を引いてもらう掘削プロジェクトの必要性が指摘された。
- ・ 成果の公開への意識改革が必要であるとの意見があった。
- ・ MSPのスケジュールの不確定さは問題で、ヨーロッパの仲間意識が問題であるとの意見もあった。
- ・ 地震学会ではあまりIODPでは知られていないという指摘もあり、もっと積極的なアウトリーチ活動が必要と感じた。
- ・ 研究費がないなどネガティブなことばかりではなく、「ちきゅう」や高知コアセンターを利用できる地球科学はほかの学界からはうらやましがられており、明るい側面としてとらえるべきだとの意見もあった。
- ・ 2013年以降の新しいフレームワークをコミュニティー全体で考える必要がある。

- ・IODP-ICDPタウンホールミーティング開催について

事務局より標記の件について説明がなされた。

- ・ 5月19日(火)の17:30~20:00に開催する。
- ・ 場所が昨年とは変わっている。
- ・ 今週中にメールニュースで案内を流す予定。

- ・今年も会員機関所属は無料。

11. IODP 活動に対する要望などの洗い出しと整理〔山崎部会長〕

J-DESC の活動に対する要望などの洗い出しと整理については次回の執行部会で検討する。

- ・前期の執行部の発足時には、ある程度シニアな IODP 研究者に意見を求めて整理した。
- ・次回までに、執行部委員の周囲および専門部会から意見を集めてくることが合意された。

12. その他

- ・その他

CDEX 倉本氏より乗船研究者に対する研究費についての話があった。

- ・次回執行部会開催日程

7月以降に開催。